

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 30 日現在

機関番号：42652

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381111

研究課題名(和文) 保育者の精神的健康を促進する心理的援助の方策

研究課題名(英文) An effective psychological help program to promote the mental health of the childcare workers

研究代表者

池田 幸代 (IKEDA, YUKIYO)

東京立正短期大学・その他部局等・准教授(移行)

研究者番号：50591533

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、保育者の精神的健康を維持するために有効な心理的援助プログラムを開発することを目的として行われた。まず保育者を対象とした質問紙調査より、「積極的解決」「放置・回避」「仕事外の充実」「慎重・冷静」4因子構造の保育者ストレスコーピング尺度を作成した。そのうち、GHQ28で測定した保育者の精神的不調を有意に低減させる因子は「積極的解決」のみという結果を得た。この「積極的解決コーピング」に焦点を当てた認知行動療法を援用した面談を5名の保育者を対象に月に1回、6ヶ月間実施し、面談時のGHQ12の測定値を確認したところ、全員精神的健康が維持・上昇する結果を得て、面接介入の効果があることが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted for the purpose of developing an effective psychological help program to maintain the mental health of the childcare workers. At first "carefulness was calm", and the "active solution" "leaving, evasion" "outside enhancement that worked" made a childcare worker's stress coping scale of four factors structure than the inventory survey for childcare workers. The factor which significantly reduced the mental disorder of the childcare workers who measured soon in GHQ28 got a result "only active solution". The cognitive-behavioral therapy that focused on this "aggressive solution coping" for five childcare workers was carried out once a month for six months. After confirming measurements of GHQ12 at the time of the interview, all the members' mental health got maintenance, a result to rise and understood that the interview intervention was effective.

研究分野：心理学、教育学

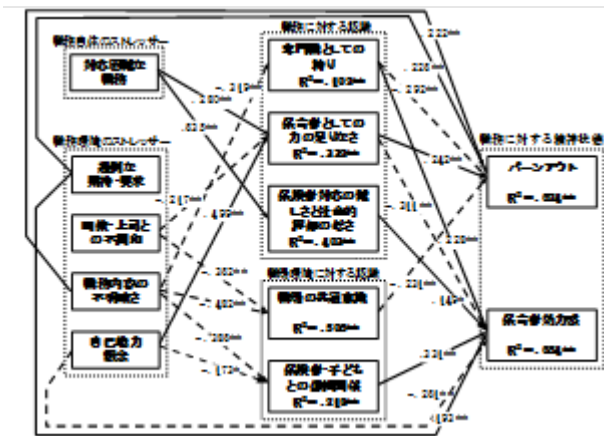
キーワード：教育学 幼児教育・保育 精神的健康 保育者ストレス ストレス・コーピング 心理的援助

1. 研究開始当初の背景

保育者が対人援助職であることは明白だが、これまでそのストレスに関して、他の対人援助職と比較し、調査・研究が少なかった。近年になり、赤田(赤田 太郎(2002)「保育士ストレス評定尺度の作成と信頼性・妥当性の検討」『心理学研究』81(2), 158-166)等の研究が著されてきたが、直接的に保育者のストレスを軽減し、精神的健康を維持する知見は、未だに得られていない。しかし、平成20年の保育所保育指針および幼稚園教育要領の改訂により、保育者による保護者支援や地域の子育てセンターとしての役割は一層明確になり、今後ストレスの増大が予測され、より支援が必要になるとされる。また、研究代表者の先行研究から、保育士と幼稚園教諭のストレス構造の共通点と差異点が、初めて明らかになったが(池田幸代・大川一郎(2012)「保育士・幼稚園教諭のストレスが職務に対する精神状態に及ぼす影響：保育者の職務や職場環境に対する認識を媒介変数として」『発達心理学研究』23(1),23-35) 現実的には、今後幼保一体化の流れにより、保育士と幼稚園教諭の職務内容の差異は少なくなっていくと予想される。また、同池田・大川の研究(池田幸代・大川一郎(2012)「保育士・幼稚園教諭のストレスが職務に対する精神状態に及ぼす影響：保育者の職務や職場環境に対する認識を媒介変数として」『発達心理学研究』23(1),23-35)において、保育者のストレスは、直接ストレスとして精神状態に作用せず、職務に対する認識という媒介変数により変化することも明らかにされた(Fig.1, Fig.2 参照)。

Fig.1 保育職のストレスと職務に対する精神状態を媒介する

保育者の職務や職務に対する認識のパス・ダイアグラム：保育士

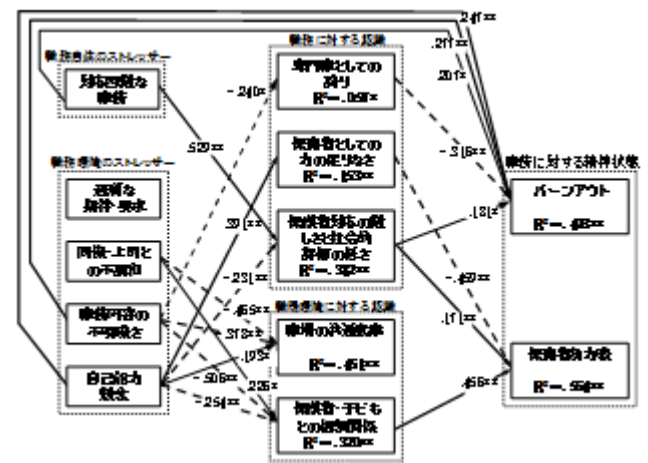


注：矢印は有意なパスを示す。実線は正のパス、点線は負のパスを示す。

標準偏回帰係数 **p<.01,*p<.05

Fig.2 保育職のストレスと職務に対する精神状態を媒介する

保育者の職務や職務に対する認識のパス・ダイアグラム：幼稚園教諭



注：矢印は有意なパスを示す。実線は正のパス、点線は負のパスを示す。

標準偏回帰係数 **p<.01,*p<.05

ゆえに「保育者」全般への心理的援助介入を行なうことにより、職務上のストレスを調整することの有効性が明らかにされ、精神的健康を維持することが、保育の場における人的環境の質を高め、ひいては子どもの健全な心身の育ちを保障するものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、保育者の精神的健康を維持するために有効な、心理的援助プログラムを開発するために、保育者特有の職業ストレスに対するコーピング尺度を作成することを目的とし、具体的には、以下の三点を行うこととする。

- ・保育者のストレス・コーピングが他の職業と異なっていることを仮定して、保育者特有のコーピング尺度を作成する。
- ・コーピング尺度を使用し、精神的健康状態に影響する要因を明らかにする。
- ・保育者の健康な精神状態を維持する、心理的介入援助プログラムを作成し、保育者支援の一助とする。

3. 研究の方法

保育者ストレス・コーピング尺度の作成については、職場の異なる保育士および幼稚園教諭複数名を対象として、職務上のストレスに対するコーピングについて聞き取り調査を行った。この調査結果より、共通する項目が多いと思われた「職場用コーピング尺度」(1992, 庄司正実・庄司 一子)を主として参考に、保育者のコーピングについての60項目の質問を作成し、郵送法による質問紙調査の配布・回収を実施した。初年度は南関東4県を中心に、103園の幼稚園・保育所・認定こども園に勤務する954名の回答を得られ

た。この回答者の内訳は、幼稚園教諭 163 名、保育士 791 名と、保育者の割合が多かったため、調査結果の偏りを防ぎ、また対象者を増やして尺度の信頼性・妥当性を更に高めるために、次年度も同様の質問紙調査を依頼し、その結果を統計処理により分析し、尺度の作成を行った。

作成した保育者ストレス・コーピング尺度と、尺度作成のための質問紙調査時に同時に測定した GHQ28 の得点との関連を統計処理により分析し、精神的健康の維持に影響を及ぼすコーピングを明らかにした。

この精神的健康の維持に有効なコーピングに特に注目し、次年度より次々年度にかけて、保育者のための心理的介入援助プログラムを作成するために、面接対象者を、職場と職位の異なる保育園園長 1 名、幼稚園園長 1 名、保育所保育士 2 名、幼稚園教諭 1 名の計 5 名とし、それぞれ半年間継続して認知行動療法を援用した面談介入を行い、その精神的健康状態の経過を GHQ12 により測定した。また、面接時の逐語録の分析を質的コーディングによって行い、介入による精神状態の変化の過程を調査した。

4. 研究成果

本研究の事前の聞き取り調査、および「職場用コーピング尺度」(1992, 庄司正実・庄司一子)を参考に、独自に作成した 60 項目から構成される、保育者の職務上のストレス・コーピングについての、計二回の質問紙調査の実施により、1580 名の保育者の回答を得た。内訳は保育士 1230 名、幼稚園教諭 350 名であった。質問紙調査で得られた回答を得点化し、因子分析を行った。

分析にあたり、まず、幼稚園教諭・保育士のストレス・コーピングに差異がないことを確認するために、それぞれの分析を行った。その結果、最尤法・プロマックス回転により 44 項目から構成される 4 因子構造となり、多少項目の相違はあるが、構造の一致が確認された。その結果を踏まえて、両者の回答を合わせて、同様に主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った結果、得点分布と概念としての必要性より、さらに 11 項目が削除され、33 項目から構成される 4 因子構造が確認された。

各因子の係数は .80 より大きく、尺度の内的整合性が高いと判断された。4 因子は、それぞれ、構成する項目の内容から、「積極的解決」因子、「放置・回避」因子、「仕事外の充実」因子、「慎重・冷静」因子と命名され、4 因子構造の保育者ストレス・コーピング尺度が完成した。

次に、保育者の精神的健康に影響するストレス・コーピングについて明らかにするために、GHQ28 で測定した保育者の精神的不健康度を GHQ 得点化し、「積極的解決」、「放置・回避」、「仕事外の充実」、「慎重・冷静」の 4 種のストレス・コーピングとの因果関係を明らかにするために重回帰分析を行った。その

結果、精神的不健康度を有意に低減させる因子は「積極的解決」のみであり、「放置・回避」、「仕事外の充実」は、ストレス・コーピングであるにもかかわらず、精神的不健康度をむしろ有意に増幅させていた。さらに、GHQ 得点のカット・オフポイントである 5 点以下を「精神的不健康度低群」、6 点以上を「精神的不健康度高群」として、4 種のストレス・コーピングとの因果関係を明らかにするために重回帰分析を行った。その結果、精神的不健康度低群を有意に増幅させるストレス・コーピングは「積極的解決」のみであった。一方「精神的不健康度高群」を有意に低減させるストレス・コーピングは「積極的解決」のみであり、「放置・回避」コーピングは、有意に増幅させることが明らかになった。

この結果より、前述の庄司の先行研究(1992, 庄司正実・庄司一子)では、コーピングの有効性の測定を目的とするものではなかったが、特定のコーピングが一定の有効性を示すという新しい知見を得た。

最後に、この「積極的解決コーピング」に焦点を当てた認知行動療法を援用した面談を 5 名の保育者を対象に月に 1 回、6 ヶ月間実施し、面談時の GHQ12 の測定値を確認したところ、全員精神的健康が維持・上昇する結果を得て、面接介入の効果があることが分かった。コーディングの結果では、「自分は」という主観的な思いが強い不満となっていた保育者が、徐々に「保育は」、「自分が思う子どもとは」と、保育者としての思いが遂げられない不満が多くみられ、そのため客観性が上がったと考えられる。また、ほぼ全員に「定期的に話を出来るのが支え」、「この日を待っていました」等、ストレスを他者に安心して吐き出せる時間があること、と同時に「期間限定」でストレスに耐えることは、解決の見通しの立たないストレスに耐えることより容易であることが予想された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

池田幸代

保育者養成校学生の施設保育士志望に影響する施設実習における利用児・者への意識と関連要因

高等教育と学生支援 -お茶の水女子大学
教育機構紀要-第 5 巻

池田幸代

保育者養成校における学生の進学理由と保育者志望との関連における、実習前のボランティア経験の意味

東京立正短期大学紀要第 43.44 号

〔学会発表〕(計 1 件)

池田幸代・田中謙・前嶋元

幼児教育・保育における「保育の環境」をとらえる視点

日本保育学会第 68 回大会ポスター発表

池田幸代・田中謙・前嶋元

幼児教育・保育における「保育の環境」をと
らえる視点

日本保育学会第 69 回大会

〔図書〕(計 1 件)

青木紀久代,尾嶋玲子,山下直樹,矢野由佳子,武田
(六角)洋子,加藤邦子,稲垣馨,池田幸代,石井正

子,岩藤裕美,島田恭子

実践・保育相談支援

みらい

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 幸代 (Ikeda Yukiyo)

東京立正短期大学・現代コミュニケーション
ン学科 幼児教育専攻・准教授

研究者番号： 50591533